



## 第5章

# 外交孤立の台湾、危うい「シリコンの盾」

日本経済研究センター 研究員

(兼日本経済新聞社編集ビジネス報道ユニット担当部長)

山田 周平

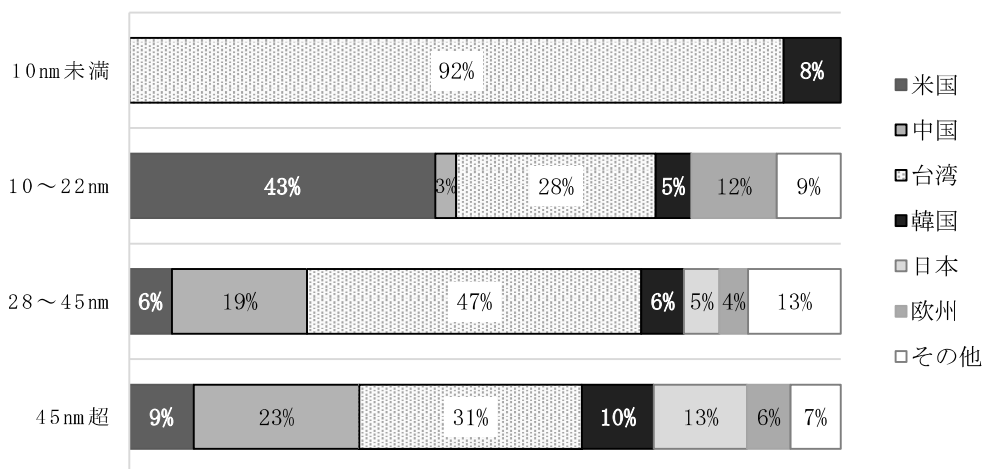
### 【ポイント】

- ▶ 台湾の経済安全保障が世界の注目を集めている。地政学を左右する戦略物資である半導体の生産で世界最先端に行く一方、中国による政治・軍事面での統一圧力にさらされる特殊な環境に置かれているためだ。経済的な利益をもたらす存在でもある中国との距離をどう取るかは、台湾の積年の課題である。
- ▶ 嫌中・親米を対外関係の基調とする蔡英文政権は2016年以降、台湾経済の脱・中国や外交孤立の打破で一定の成果を出した。しかし、主要国と外交関係を持たないなどのハンディの克服は難しく、経済安保で台湾積体回路製造(TSMC)を筆頭とする半導体産業の価値を前面に打ち出す局面が増えている。
- ▶ TSMCは世界最強の半導体メーカーではあるが、製造装置や素材などのサプライチェーン(供給網)を日米欧に大きく依存しており、もろさと表裏一体である。日本は台湾とは外交関係を持たない事実を踏まえつつ、製造技術の提供など実務的な手法でその経済安保を支えるべきだ。



注目データ

ロジック半導体の生産シェア  
(国・地域、回路線幅別)



資料：米国半導体工業会の調査より筆者作成、数値は2019年時点